

2月12日(土)

第1会場

16:00~17:00

2階 講堂

コメディカルによるデバイス患者管理

【概要】

メーカーによるデバイス植込み時、およびフォローアップ時の立会いが規制され、コメディカルがこれらを自らの業務として取り組んでいる施設が増えつつある。したがって、現在、これに続こうとしている施設も多くあると思われる。しかし、最近の心臓治療植込みデバイスの機能は、新たな機能の導入、従来の機能の融合により、さらなる複雑化が進んでおり、どのようにアプローチしたらよいか分からないで苦勞している施設もあるのではないと思われる。また、準備段階で手落ちがあったり、間違った取り組みをしてしまうことも問題といえる。

そこで、本セッションでは、既に活動をしているいくつかの施設に、それぞれが、どのような準備を経て業務を開始したか、どのような規準でデバイス動作の正常、異常を判断しているか、また、医療機関のスタッフによる患者管理には、従来と異なったどのようなメリットが生じたか、メーカーとの連携はどのように扱っているか等について紹介して頂き、後に続こうとしている人々に対するアドバイスのセッションとなるよう企画した。

〔座長〕 松阪 淳 枚方公済病院
中川孝太郎 横浜栄共済病院ME科

埼玉医科大学国際医療センターMEサービス部 ○大木 康則

横浜栄共済病院ME科 ○中川孝太郎

カレスサッポロ北光記念病院ICD/PMセンター ○高橋 亜希